



権交渉がハム日斎

後藤(前商)はオリックス

プロ野球のドラフト会議(新人選手選択会議)が28日、都内のホテルで開かれ、早大4年の斎藤佑樹投手(22)＝太田生品中＝東京・早実高出身＝は日本ハムが交渉権を獲得した。前橋商高3年の後藤駿太外野手(17)はオリックスから1位指名を受けた。



日本ハムが交渉権を獲得した早大の斎藤投手



オリックスから1位指名を受け仲間から胴上げの祝福を受ける後藤駿太(前橋商)＝前橋商第2体育館

藤 早大

斎藤投手には、1位指名を事前公表していたヤクルト、ロッテに加え、日本ハム、ソフトバンクが1巡目で入札。4球団

による抽選となり、日本ハムの藤井純一社長(61)が「当たりくじ」を引き当てた。

斎藤投手は生品中当時に関東中学軟式ベスト8、早実高当時は3年春夏の甲子園に出場し、夏の全国選手権優勝。早大で1年春から東京六大学のリーグ戦に登板し、通

算30勝、300奪三振を達成している。後藤外野手は、1位の抽選を3人外したオリックスに指名された。2年春のセンバツ、3年夏の選手権で甲子園出場。「走・打・守」の三拍子そろった大型外野手として、各球団の評価が高かった。洪川中出身。

早大の大石達也投手(22)が1巡目で6球団競合となり、西武の渡辺久信監督(45)が当たりくじを引き当てた。中大の沢村拓一投手(22)は巨人、仏教大の大野雄大投手(22)は中日が単独指名。早大の福井優也投手(22)が広島「外れ1位」指名を受け、ドラフト史上初めて、同一チームから

3投手が1位指名された。ドラフト会議は高校生、大学生、社会人を一括して開かれた。1巡目(1位指名)は入札制度、複数球団が競合した場合に抽選。2巡目(2位指名)以降はウエーバー方式(偶数巡は下位球団から、奇数巡は逆順で、以降繰り返し)で行われる。